

简 讯

- ◇ 3月21日六期生20名同学开始访日研修，他们将在为期半年的时间里，在指导教师的指导下，搜集资料、初步完成硕士论文，于9月20日回国。
- ◇ 3月26日下午前期客座研究员袁方、周维宏分别作了题为「涩泽荣一的经济伦理思想研究」和「日本东北地区战后农村工业化初探」的研究成果发表会。
- ◇ 3月29日18:00“中心”在天桥宾馆举行了新到任专家欢迎宴会，除了新任的10名专家外，“中心”的教职员及国家教委、北京外国语学院的有关人员出席了宴会。
- ◇ 4月3日“中心”组织专家春游，参观了万里长城、十三陵（定陵）和十三陵水库，大多数新任专家参加了这次活动。
- ◇ “中心”派遣的第2批博士生4人已通过了各所在大学的考试，升入了博士课程。第3批博士生3名已于4月5日赴日。名单见下页。
- ◇ 4月6日国际交流基金中国特别事业班职员盐泽雅代小姐来“中心”访问，盐泽小姐在参观了图书馆等设施后，就课程设置、事务联络、专家派遣等具体问题听取了中日双方有关人员的意见。
- ◇ 第5届日本学中日语学术研讨会 本次研讨会报名者55人，经中日双方严格审查报名者提交的论文提要后，录取了其中的39人（语言分科会11人、文学分科会9人、社会分科会9人、文化分科会10人），录取通知已于3月31日发出。
- ◇ 公开讲座：4月1日、8日、15日各周四，“中心”按惯例举办了公开讲座，讲演题目与讲演者如下：市濑智纪「初级句型—导入练习时的问题点」、饭野清士「统筹性教学法」、小林贤次「日语条件表现的变迁」。
- ◇ 专题讲座：3月19日、4月2日、4月16日（隔周五）下午南开大学教授王家骅作了「早期日本儒学及特征」、「镰仓室町时代的日本儒学」、「中日朱子学的比较」的专题讲演，就日本儒学及朱子学的传入作了精辟的分析与论证。

★ 研究室动态 ★

【语言研究室】

4月9日下午语言研究室举行了第一次研究成果发表会，谯燕就「中日同形语」发表了近期的研究成果。与会的研究室成员、客座研究员纷纷各抒己见，就「同形语」问题展开了热烈的讨论。下次研究会将于5月14日举行，由研究室副主任徐一平老师发表，题目为：「なく(に)」的表达方式，欢迎广大进修生及语言专业的研究生踊跃参加。

【社会研究室】

4月30日下午社会研究室将举行第一次研究会，由研究室成员宋金文发表，题目为「日本农家生活方式的都市化」。希望社会文化专业的学生积极参加。

## □ 新任专家 自我介绍 (其二) □

- ☆尾藤正英先生：我第二次来中国。早在1983年，我就来过“中心”的前身大平班。通过40多年的研究，才稍全面地理解了日本和日本历史，我为此感到很欣慰。
- ☆上垣外宪一先生：我原是个德文教师，从事比较文化研究。因为曾于1984至85年间去过汉城大学之故，现在专门研究日韩文化交流史。我的爱好是古典音乐。
- ☆石井久雄先生：我本来与讲坛没有多少缘份，事隔多年重又站在讲坛上，深感不适应。我应该对老师和同学们说声“对不起”。
- ☆加藤晴子先生：我经常骑自行车去北京城逛逛。我最喜欢走长安街~池子大街~景山前街~文津街这条路线。我更喜欢穿越小胡同。我的专业是中国语言。

火 火 火

- ☆飞田立史事务主任：我以前曾在中国留学9年，相隔几年看到北京的变化这么大，我不知是喜还是忧。每当我对也曾来过中国的爱人讲起这儿原来怎么样、那儿原来怎么样的时候，她总是笑我“象个老年人”。

我喜欢七弦琴（就是所谓的“琴痴”）。这也是中国孔子、白居易和我们国家的光源氏所喜欢的。还喜欢睡午觉。

我是日本原人（位于绳文系阿武隈山地）的典型？。请大家多多关照。

## ☆专家春游一万里长城，明十三陵☆

前一天夜里还下着雨，4月3日一早却已是爽朗的晴天。在陈海良副主任和张龙妹的陪同下，我们一行前往北京郊外的八达岭。能看到长城的雪景简直是意外的幸运。前一天的雨在郊外变成了雪，由官厅水库的方向向长城北侧刮来泡沫似的雪霰。在居庸关欣赏了各个时代各个民族的碑文，之后参观了万历皇帝的地下宫殿。这次参观，对有的老师来说是第一次，而对有些老师来说已是第3或第4次了。但是这些伟大的历史遗迹，每次来都不一样。今天的八达岭已经有了索道，还有「秦始皇艺术宫」。而十三陵水库却建起了中日合资的「九龙游乐宫」。这些地方也都呈现出了北京的“新貌”。那天游览万里长城和十三陵非常愉快。回来之后还有一种恰当好处的疲劳感。最后有一个教训：每到长城非常累。

（市濑 智纪）

## < 第 3 批 博 士 生 名 单 >

姓 名	职 称	专 业	原工作单位	接收单位	指导教师
马朝红	讲师	日本文学	北京语言学院	学习院大学文学部	十川信介
张立	助研	日本社会	国家教育委员会	东京大学大学院 教育学研究科	天野郁夫
周敏西	讲师	日本语言	湘潭大学	国学院大学文学部	冈崎正继

※另有一名被推荐的博士生王成（北京第二外国语学院讲师），因为手续上的原因，将推迟到今秋十月访日。

## [ ニュース ]

- ◇ 3月21日(日) 6期生20名の訪日研修が始まった。半年の期間内に、指導教授の指導を受け、資料を収集し、修士論文を一通り完成させる。9月20日に帰国する予定である。
- ◇ 3月26日(金) 午後、前期の客員研究員である袁方、周維宏の両氏により、それぞれ「洪沢栄一の経済倫理思想研究」と「日本東北地方の戦後の農村工業化初探」と題する研究成果の発表会が行われた。
- ◇ 3月29日(月) 18:00 より、新任專家の歓迎宴が天橋賓館にて行われた。新任の10名の專家を始め、センター教職員及び国家教育委員会、北京外国語学院の関係者がこの歓迎宴に参加した。
- ◇ 本センター派遣の第2期博士課程進学候補生がそれぞれ在籍中の大学の入試に合格し、博士課程へと進学した。第3期博士課程進学候補生3名は既に4月5日に日本へ赴いている。名簿は次頁。
- ◇ 4月3日(土) 本センターの主催で春の遠足が行われ、万里の長城と明の十三陵(定陵)、十三陵水庫を見学した。新任專家の多数が参加した。
- ◇ 4月6日(火) 国際交流基金中国特別事業班職員の塩沢雅代さんが本センターを訪問された。塩沢さんは図書館等の施設を参観された後、設置科目、事務連絡、專家派遣などの具体的な問題点について関係者からの意見を聞いた。
- ◇ 第5回日本学中日シンポジウム：この度のシンポジウムへの応募者は55名であった。提出された論文要旨を日中双方で厳格に審査した結果、その中の39名を採用することに決まった(言語分科会11名、文学分科会9名、社会分科会9名、文化分科会10名)。この採用通知は3月31日に返送された。
- ◇ 公開講座：4月1日、8日、15日の各木曜日、センター恒例の公開講座が開催された。演題と講演者は以下の通りである：市瀬智紀「初級文型-導入・練習時の問題点」、飯野清士「統合的アプローチについて」、小林賢次「日本語条件表現の変遷」。
- ◇ 専題講座：3月19日、4月2日、16日(隔週金曜日)の午後から、南開大学教授王家驊教授により「初期の日本儒学及びその特徴」、「鎌倉室町時代の日本儒学」、「中日朱子学の比較」と題する専題講演が行われた。日本の儒学と朱子学の伝来に関して、精緻な分析と論証が行われた。

## ★ 研究室動向 ★

### 【言語研究室】

4月9日(金) 午後、言語研究室の第一回研究発表会が行われ、譚燕さんが「日中同形語」と題して近日の研究成果を発表した。研究室のメンバーと客員研究員が各自の見解を述べ、「同形語」の問題について熱い議論が展開した。次回の研究会は5月14日(金)に開催され、研究室副主任の徐一平先生の発表がある。題目は「『なく(に)』の表現形式」である。多くの研修生及び言語専攻の大学院生の積極的な参加を歓迎する。

### 【社会研究室】

4月30日(金) 午後、社会研究室は第一回の研究会を举行し、研究室のメンバーの宋金文氏が「日本農村の生活方式と都市化」という題目で発表する。社会文化専攻学生の積極的な参加を期待する。

## □ 新任専門家 自己紹介 (その2) □

☆尾藤 正英先生：センターの前身である大平学校の時、1983年に来ましたので二度目です。40年あまり勉強して来て、やっと日本ないし日本の歴史が分かったような気がして楽しく思っています。

☆上垣外憲一先生：もともとはドイツ語の教師ですが、比較文化を専攻し、1984-5年にソウル大学に行ったりした関係で、日韓文化交流史を主にやっています。趣味はクラシック音楽。

☆石井 久雄先生：教壇にはもともと縁が薄く、久びさに立ちましたが、やはり違和感をぬぐいきれません。学生諸氏をはじめ、センターの皆様にも申し訳なく存じております。

☆加藤 晴子先生：北京城内を自転車で走りまわっています。お気に入りのコースは、長安街～池子大街～景山前街～文津街。小さな胡同はもっと好きです。専門は中国語学。

\* \* \*

☆飛田 立史事務主任：中国滞在歴9年、近年の北京の変わり様に嬉しいやら悲しいやら。昔はこうだったああったというたびに、同じ留学帰りの家内から「まるで老人みたいね」と笑われてしまう日々ではあります。

ご当地の孔子、白居易またまたわが光源氏も好んで嗜んだという七弦琴を弾くのが特技（いわゆる“琴痴”）。そして昼寝。

日本原人（縄文系阿武隈山地産）の典型？。皆様よろしくお願い致します。

### ☆ 専門家春遊一万里長城・明十三陵 ☆

前日の夜には冷たい雨が降ったが、4月3日は朝から爽やかな晴天となった。陳海良副主任と張龍妹さんの案内のもと、私たち教員は北京郊外八達嶺へと向かった。雪景色の長城を拝めるとはまた幸運である。前日の雨が郊外では雪に変わり、特に官庁水庫の方から長城の北側へ泡のような粉雪が吹きつけていた。居庸関では各時代各民族の碑文を鑑賞し、そのあと万曆帝の地下宮殿を参観した。今回の参観はある先生にとっては始めて、またある先生にとっては3回目4回目であった。しかしこの偉大な歴史的遺跡も、来る度に変わっている部分がある。今日では八達嶺長城にロープウェイが掛っている。「秦始皇芸術宮」がある。また十三陵水庫には日中合資の「九龍遊樂宮」がある。ここでも北京は新しい「面貌」を見せているのである。この日はそれぞれに万里の長城・十三陵を楽しむことができた。そしてまた後には心地よい疲れが残った。最後に教訓を一つ：每到長城非常累。

### ＜ 第3期博士課程候補生名簿 ＞

姓 名	職 称	専 門	旧所属機関	受 入 機 関	指 導 教 授
馬朝紅	講師	日本文学	北京語言学院	学習院大学文学部	十川信介
張 立	助研	日本社会	国家教育委員会	東京大学大学院教育学研究科	天野郁夫
周敏西	講師	日本語学	湘潭大学	國學院大学文学部	岡崎正継

\* もう一人の博士候補生王成氏（北京第二外国語学院講師）は、手続きの問題で今秋十月訪日予定。